米子市埋蔵文化財センターたより

第５５号　　２０２４年１２月

日南町　大原川平山たたら跡　中世の木炭窯を検出

５月から発掘調査を実施しています日南町下阿毘縁に所在する大原川平山たたら跡では、新たに中世の木炭窯１基を検出しました。

木炭窯は、第 54 号で紹介した中世の製鉄炉よりも下の地層から検出され、製鉄炉よりも古い時期のものです。

木炭窯は尾根の緩斜面に位置し、その斜面に直交して構築され、焚口は斜面下方の南に向いています。平面形態は長楕円形を呈し、長さ 8.0m、幅 2.4～3.2m、深さ 0.2～0.5mを測ります。窯は緩斜面に掘り込んだ窪みを窯体とし、その中に炭の原料となる木材を入れ、蒸し焼きにするためにその上に土をのせています。窯の縁には幅 0.2～0.8mの濃橙色の粘質土が巡っていますが、これは原料材の上にのせられた粘質土が熱を受けて変色したもので、出来あがった炭を取り出す際に、この粘質土が取り除かれずに残ったものと考えられます。

窯の中央部と焚口部の底面には残留して取り残された炭化材（木炭）が窯詰めの状態を示すように窯の主軸に直交して横方向に整然と並んでいました。窯の中央部の炭化材は長さ 85～200 ㎝、直径８～15 ㎝で、出土状況から 200 ㎝弱程度に長さを揃えて窯詰めされたと考えられます。また、東側の壁際には、これらの横方向に置かれた材の下に窯の主軸に平行して縦方向に置かれた炭化材があり、最初に縦方向に材を置き、その上に横方向に材を置いて互い違いになるように積み上げて窯詰めされたと考えられます。このような窯詰めの方法は他の遺跡でも見られ、効率的に火がまわるようにしていたと推察されます。（高橋）

窯の縁に巡る粘質土

窯の中に残された木炭

発　掘　調　査　情　報

ー　大原川平山たたら跡の現地見学会の開催　ー

大原川平山たたら跡では、中世の製鉄炉や排滓場、木炭窯などが検出されました。

この調査成果を広く一般の方々に知っていただくために、10 月５日（土）に現地見学会を開催しました。当日は天候にも恵まれ、28 名の参加がありました。特にたたら製鉄に興味がある人が多く参加され、食い入るように説明を聞かれ、その後、白熱した質疑応答、議論が行われました。

なお、本遺跡の発掘調査は、10 月上旬に終了しました。（高橋）

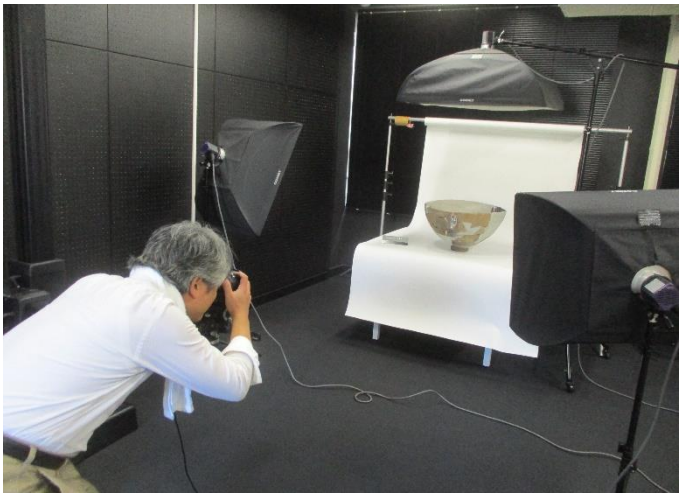
発掘調査遺跡現地見学会

整　理　室　た　よ　り

ー　出土遺物の写真撮影　ー

発掘調査で出土した土器や石器などの遺物は、発掘調査報告書にその写真を掲載したり、記録資料として保存するために写真撮影を行います。米子市埋蔵文化財センターには写真撮影を行うための写場（しゃじょう）があります。写場は撮影用の照明が乱反射しないように天井、壁、床の全面が黒色をしています。撮影を行う際には、遺物の影ができるだけ出ないようにしたり、立体感があるようにするために、撮影する遺物の大きさや色などに合わせて照明の位置や角度を調節します。

以前はフィルムカメラで撮影を行っており、現像した写真を見ないと、その撮影の仕上がり具合がわかりませんでした。仕上がり具合によっては、再び撮影をしなければなりませんでしたが、現在はデジタルカメラを使って撮影を行っており、その場で確認ができるようになり、たいへん便利で効率的になりました。（高橋）



出土遺物の写真撮影

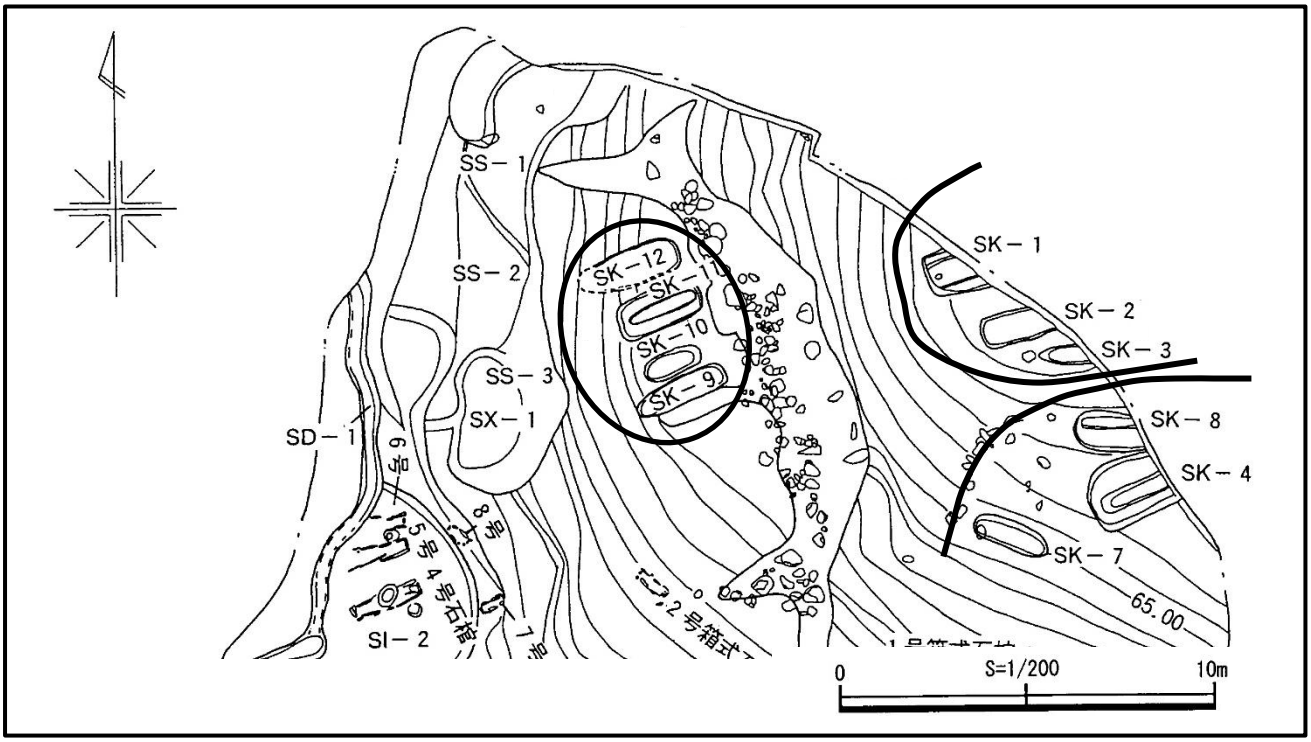
遺跡シリーズ　朝金小チヤ遺跡　（あさかねこちやいせき）

朝金小チヤ遺跡は、南部町朝金に所在し、朝鍋川流域の通称「小松谷盆地」と呼ばれる谷筋の奥に立地しています。

主要地方道溝口伯太線道路改良工事に伴い、平成６年に会見町（現南部町）教育委員会によって発掘調査が行われ、弥生時代中期後葉～平安時代の遺構が見つかっています。

調査はＡ区からＣ区に分けて行われ、Ｃ区からは弥生時代の木棺墓・土壙墓群と竪穴建物跡２棟、古墳時代中期の古墳１基、箱式石棺８基、石蓋土壙墓２基が検出されています。木棺墓・土壙墓群は溝と石で区画され、ＳＫ－１～３、ＳＫ４・７、ＳＫ－９～12 という３つの木棺墓・土壙墓群に分けられます。これらの３つの群には各々ＳＫ－１、ＳＫ－４、ＳＫ－11 といった２段掘りとなった墓壙が１基ずつあり、中心となる被葬者とこれと関連のある人物の墓域を一つの単位として、各々の墓域が明確に区別されています。

土器は墓壙上面及び斜面に転落した状態で出土しています。これらはＳＫ－１とＳＫ－４に供献されたものと考えられますが、ＳＫ－１１を中心とする群には土器が供献されなかったと考えられています。供献された土器は推定個体数百とされており、これは同じ時期の出雲の首長墓である西谷３号墓の第１主体に匹敵する数です。土器が多量という特異性に加えて、これらの土器には吉備や北近畿などの他地域の影響を受けながらも在地の要素を加えたものや、在地の土器にも周辺ではあまり見られない独特なものがあり、これらの墳墓群は独特の供献土器を持っています。山間部と沿岸平野部とを結ぶルート上にあり、そこに拠点をもつ集団の存在とその独自性を窺うことができます。（高橋）



朝金小チヤ遺跡の墳墓群

センター・資料館日誌

10 月 17 日（木）～２月 10 日（月）
米子市福市考古資料館企画展２「縄文時代の米子ー豊かな森と海に暮らした米子の縄文人たちー」を開催。

米子市福市考古資料館企画展２

10 月 18 日（金）京都大学大学院生が縄文土器の調査で来館。

10 月 19 日（土）第２回考古学講演会「縄文時代の米子について」を実施。

10 月 21 日（月）鳥取県とっとり弥生の王国推進課の濵田氏が根雨原土手下タ遺跡出土縄文土器の調査指導で来館。

11 月　３日（日）青谷かみじちフェスタにミニ石包丁つくりを出店。

11 月 16 日（土）第２回史跡ガイドウォーク「尾高城下町」を開催。

11 月 21 日（木）くらしき作陽大学の澤田教授が高山古墳出土獣面文帯金具の調査で来館。

11 月 27 日（水）山口県立萩美術館・浦上記念館の市来学芸員が陰田隠れが谷遺跡出土の土馬の調査で来館。

12 月　１日（日）鳥取大学の高田教授と島根大学の岩本准教授が普段寺古墳出土土器の調査で来館。

12 月 21 日（土）第３回史跡ガイドウォーク「米子城下町」を開催。

12 月 24 日（火）島根県立古代出雲歴史博物館の久保田学芸員が尾高城跡出土遺物の返却で来館。

編 集 後 記

今年の夏は、非常に気温が高い日が続いて、かなり暑く、秋になっても高温が続きました。12 月に入ってやっと冬らしい気候となってきましたが、今年の冬は夏の酷暑に反して寒く、しかも降雪量が多いという予報が出ています。毎年、積雪のたびに除雪を行っていますが、加齢による体力の衰えにより年々除雪を行うのがつらくなってきています。積雪回数と積雪量が少しでも少ないことを願っています。

発行日　令和６年１２月２７日
発行者　米子市埋蔵文化財センター
指定管理者（一財）米子市文化財団
電　話　０８５９－２６－０４５５
Ｅメール　yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp